

2023年7月6日

2023年11月期第2四半期

決算説明会資料

見えないけれど、あなたのそばに



大阪有機化学工業株式会社

東証 プライム：4187

01.

2023年11月期 第2四半期決算概要

02.

2023年11月期 業績予想

03.

トピックス

04.

参考資料

外部状況

新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和を受け、社会経済活動の正常化が進みました。一方で、世界的な物価上昇による原材料価格の高騰や、急激な為替変動など、依然として先行き不透明な状況が継続しています。

売上高

ディスプレイや半導体などの需要低迷の影響を受け、化成品・電子材料事業の売上高が減少しました。この結果、売上高は前年同期比11.7%減少の、142億6千2百万円となりました。

営業利益

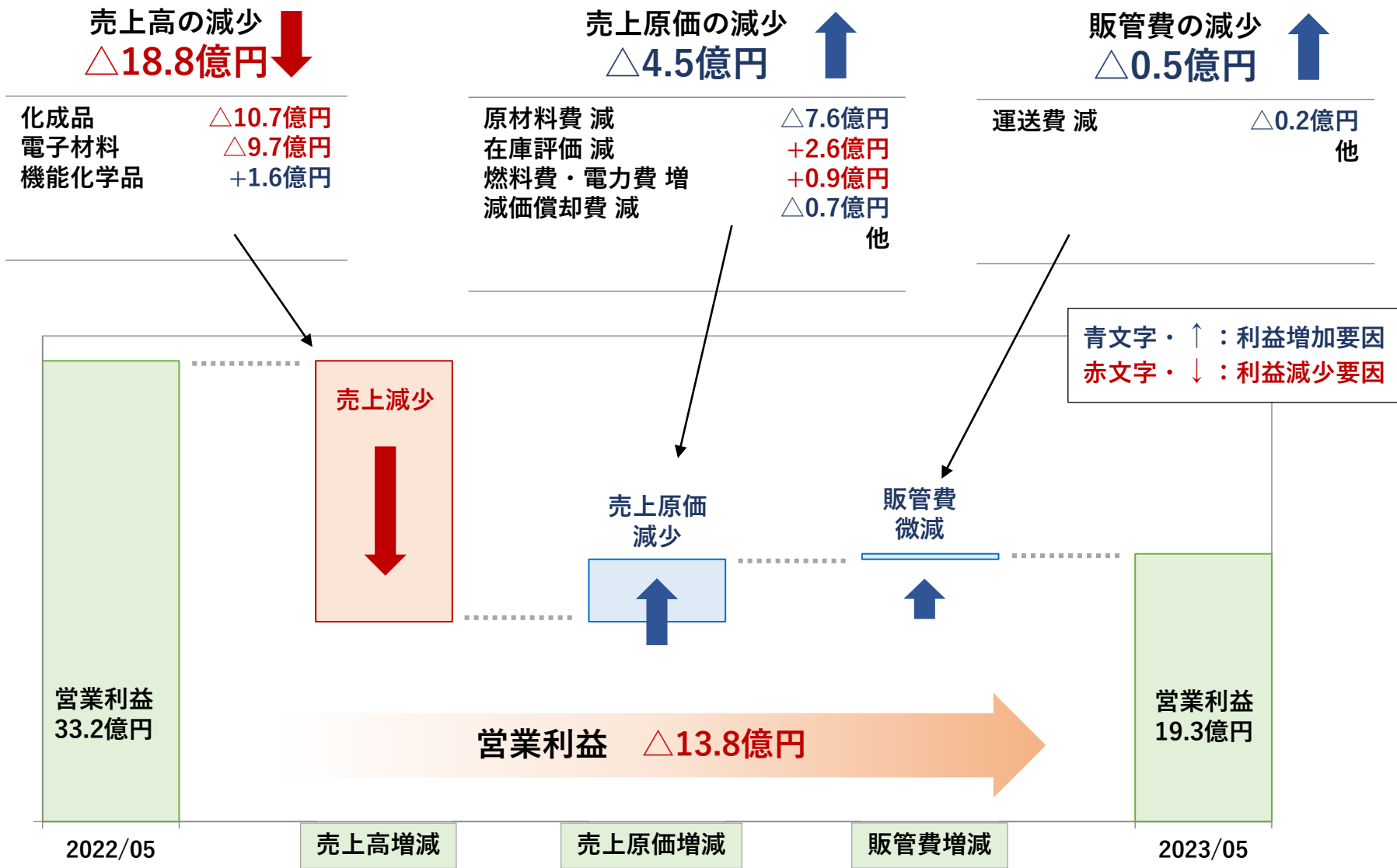
売上高の減少や原燃料価格の高止まりなどの影響により、営業利益は、前年同期比41.6%減少し、19億3千9百万円となりました。

(百万円)

	2022/05 実績	2023/05 予想値		2023/05 実績	前年同期比	
		2023/1/12 当初予想	2023/4/7 修正予想		増減額	増減率
売上高	16,144	15,900	13,900	14,262	△1,882	△11.7%
営業利益	3,320	3,150	2,000	1,939	△1,382	△41.6%
経常利益	3,526	3,250	2,100	2,074	△1,452	△41.2%
純利益*	2,448	2,200	1,400	1,606	△843	△34.4%
国内ナフサ (¥/KL)	74,800	72,000		66,750	—	—
為替 (¥/\$)	119	133		134	—	—

*親会社株主に帰属する四半期純利益

化成品・電子材料事業の売上高の減少や、在庫評価減による原価上昇、燃料費・電力費の増加などにより営業利益は前年同期に対し、13.8億円の減少となりました。



セグメント実績

■ 化成品

自動車用塗料向けは堅調でしたが、ディスプレイ用粘着剤向けやUVインクジェット用インク向けの販売が低迷し、売上高・営業利益ともに前年比で大幅に減少いたしました。

■ 電子材料

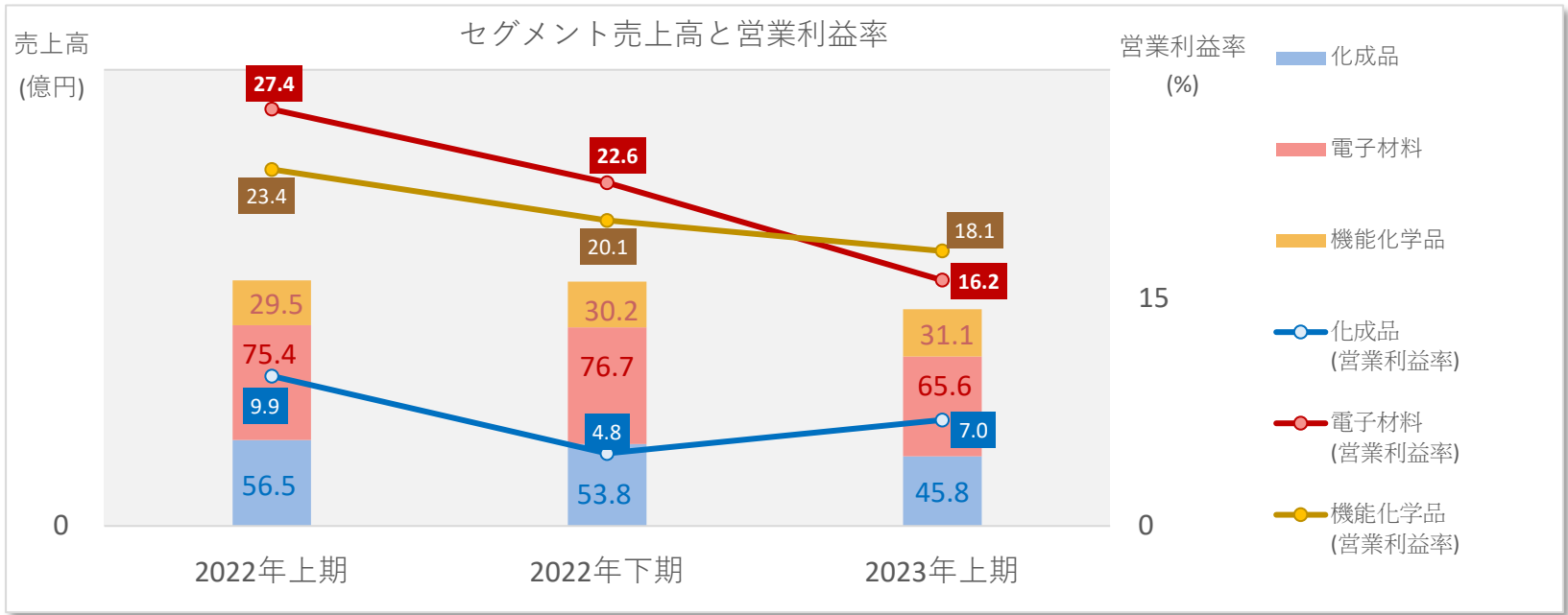
半導体材料は、最先端のEUVレジスト用原料は好調でしたが、ArFレジスト用原料は需要が軟調で、前期比で横ばいでした。表示材料は、ディスプレイの需要低迷により販売が低調に推移し、前年比で減収・減益となりました。

■ 機能化学品

化粧品原料の販売が海外で好調でしたが、機能材料は受託品の販売が低調、子会社の高純度特殊溶剤の販売は好調に推移し、前年比では増収・減益となりました。

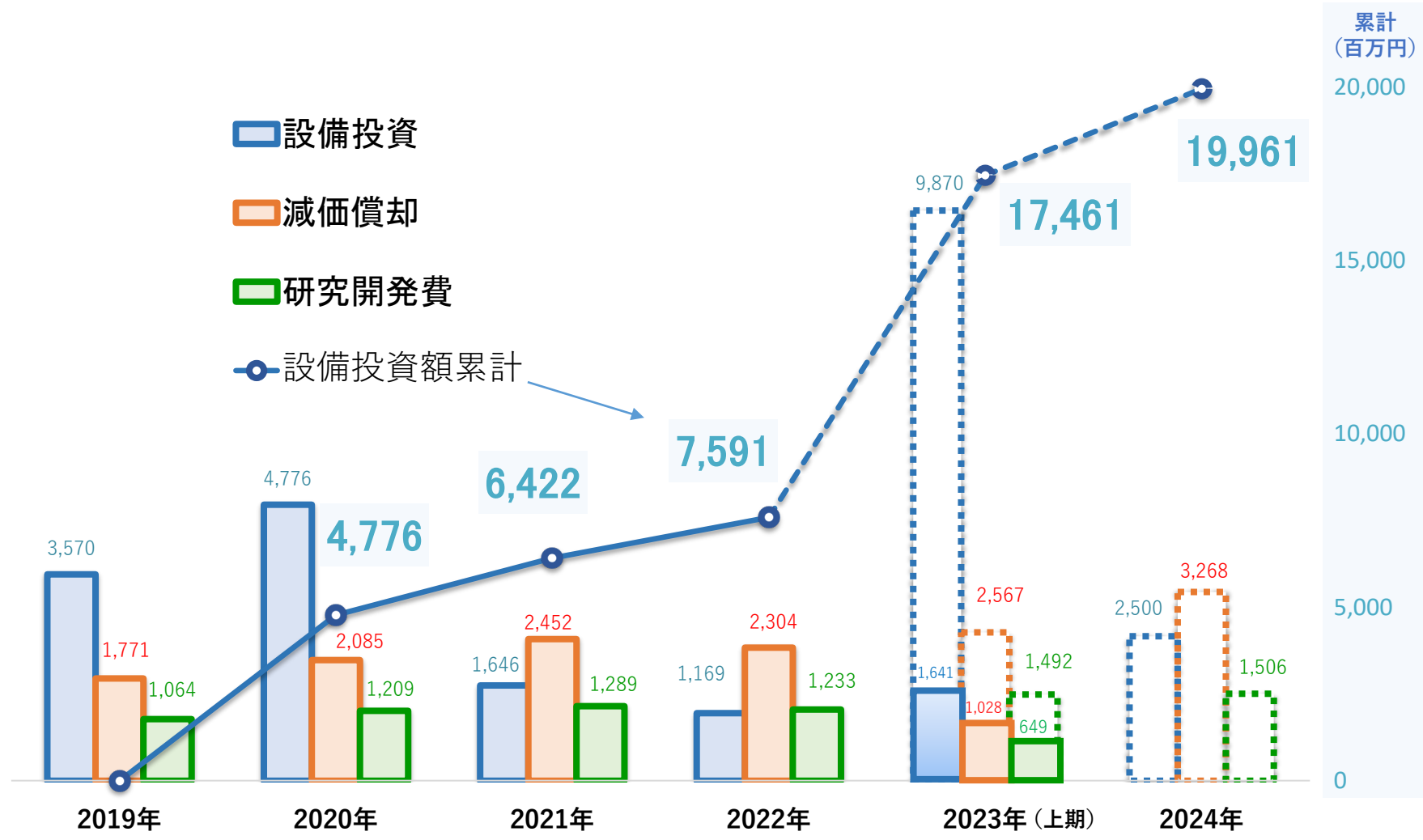
(億円)

	化成品	電子材料	機能化学品
売上高	45.8 (YoY: △19.0%)	65.6 (YoY: △12.9%)	31.1 (YoY: +5.6%)
営業利益	3.1 (YoY: △42.7%)	10.6 (YoY: △48.7%)	5.6 (YoY: △18.6%)



設備投資・減価償却・研究開発費の推移

* 中期経営計画にて、**2020年～2024年度**までの累計で**約200億円**の設備投資を計画しております。

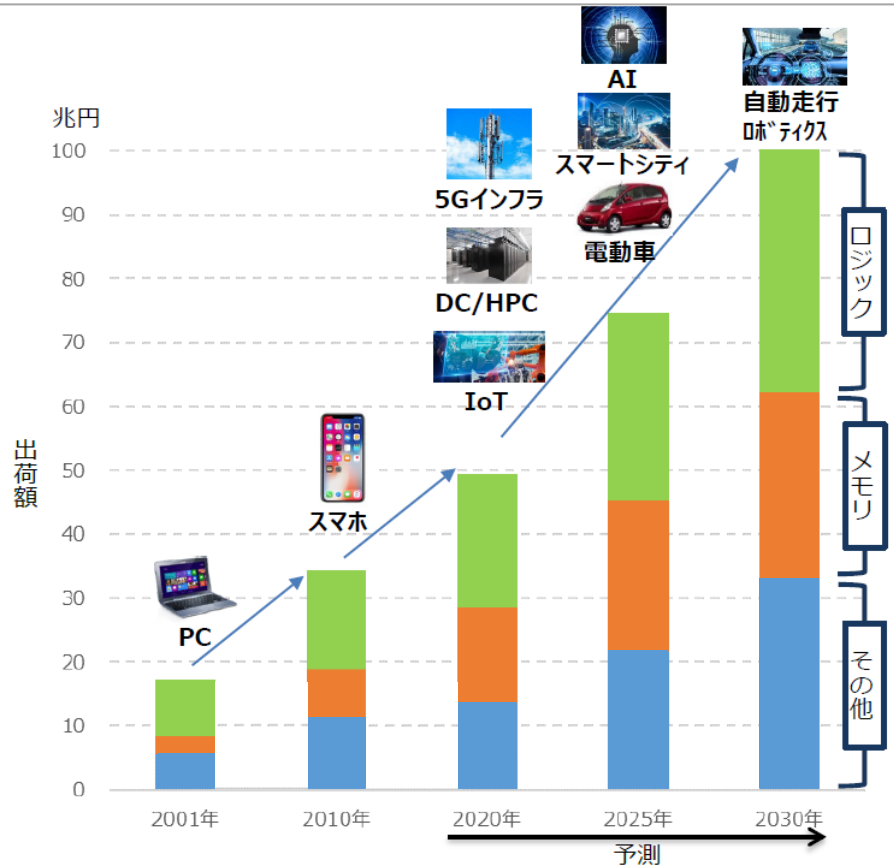


* 点線は通期予想

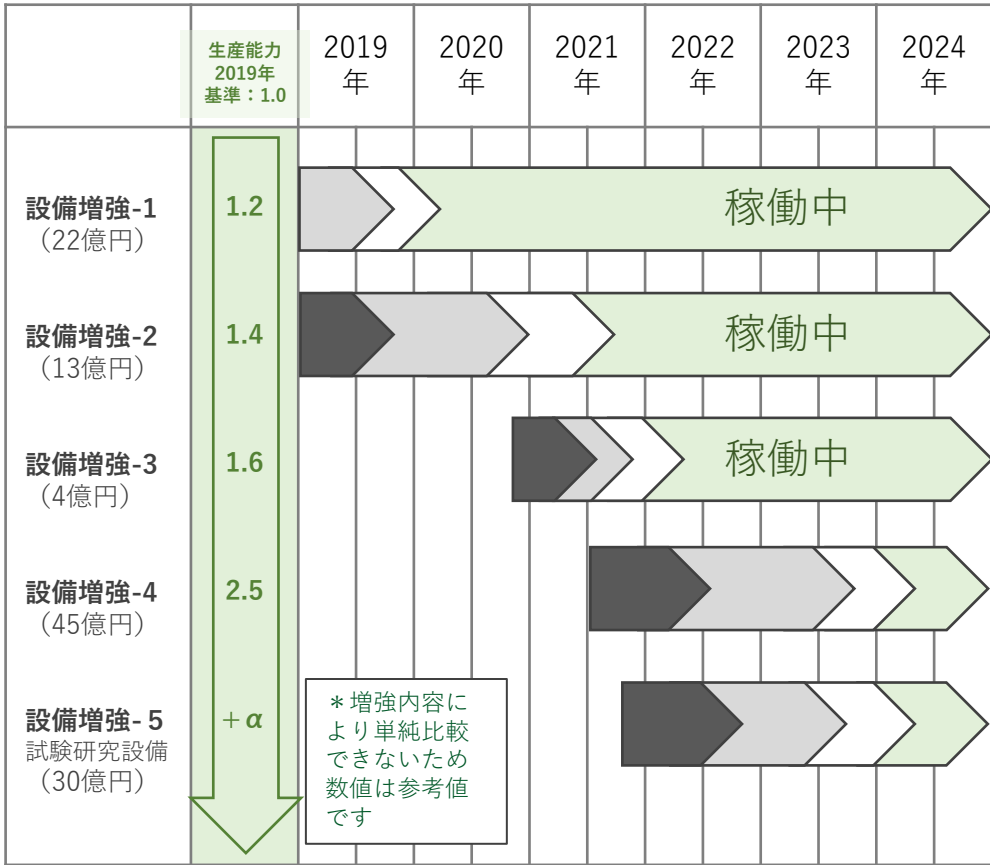
半導体市場の成長と当社の設備増強

- ◇半導体市場は、デジタル革命の進展に伴い今後も右肩上がり成長すると予測されています。(2030年約100兆円)
- ◇当社においても、積極的な設備投資により生産能力を高めてまいります。

◆世界の半導体市場



◆半導体材料製造設備の増設推移



経済産業省
半導体・デジタル産業戦略検討会議資料より

・カッコ内は設備投資額



01. 2023年11月期 第2四半期決算概要

02. 2023年11月期 業績予想

03. トピックス

04. 参考資料

2023年11月期は、売上高は290億円、営業利益は38億円と予想しております（2023/4/7修正値）。上期における業績予想に対する進捗率は、売上高が49.2%、営業利益は51.0%で、概ね予想値に近い値で推移しました。

(百万円)

	2022/11 実績	2023/11 予想		前年実績比		2023/05 上期実績	半期 進捗率
		2023/1/12 当初予想	2023/4/7 修正予想	増減額	増減率		
売上高	32,236	33,500	29,000	△3,236	△10.0%	14,262	49.2%
営業利益	5,934	5,850	3,800	△2,134	△36.0%	1,939	51.0%
経常利益	6,365	6,050	4,000	△2,365	△37.2%	2,074	51.9%
純利益*	4,725	4,100	2,800	△1,925	△40.8%	1,606	57.4%
国内ナフサ (¥/KL)	76,000	72,000		—	—	66,750	—
為替 (¥/\$)	129	133		—	—	134	—

*親会社株主に帰属する四半期純利益

2023年上期
売上高

通期予想

進捗率
vs 通期予想

売上高・営業利益率

45.8 億円

94.7 億円

48.3%

■ 売上高 ● 営業利益率 (右軸)

● 外部環境

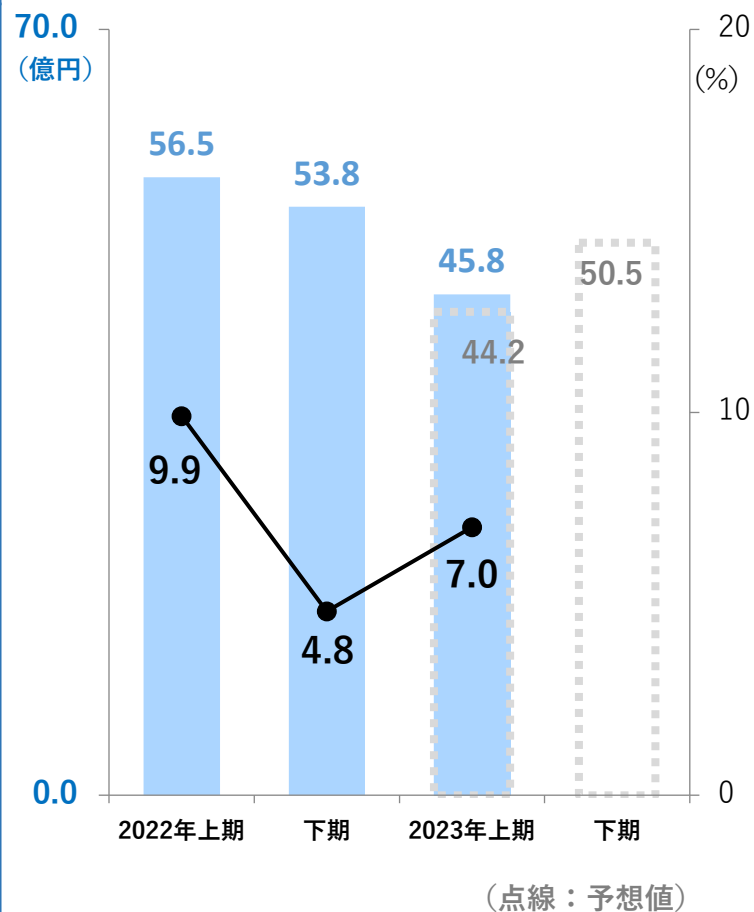
- ・ コロナ禍での規制が緩和され、経済活動は正常化に向かう一方で、原料・燃料価格の高騰が継続している。価格転嫁は徐々に進んでいるものの、費用の増加が利益を圧迫する状況が続いている。

● 当社の状況

- ・ 自動車用塗料向けの販売は、堅調に推移。
- ・ ディスプレイ用粘着剤向けや、UVインクジェット用インク向け材料の販売が低迷。

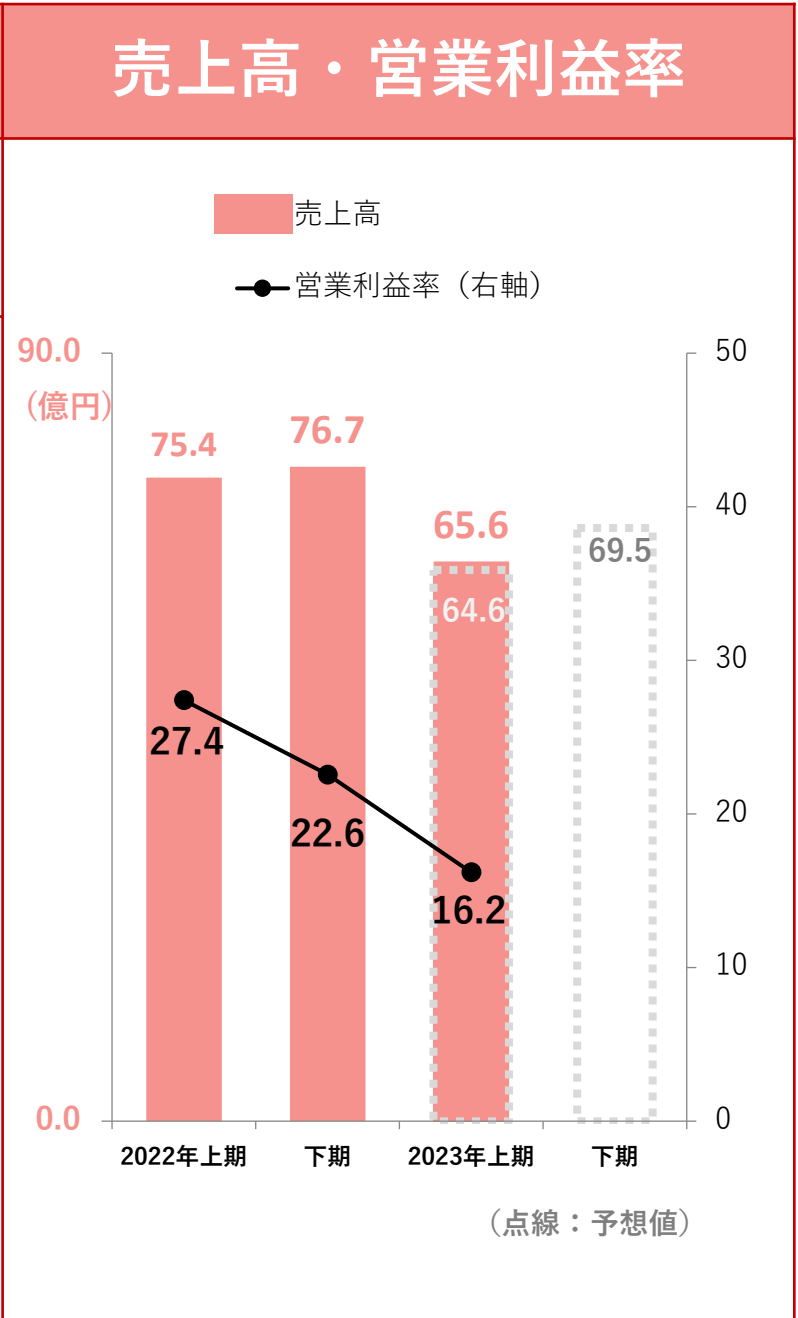
● 市場におけるリスク

- ・ 原油価格の高止まり。
- ・ 天然由来原料相場の高騰。



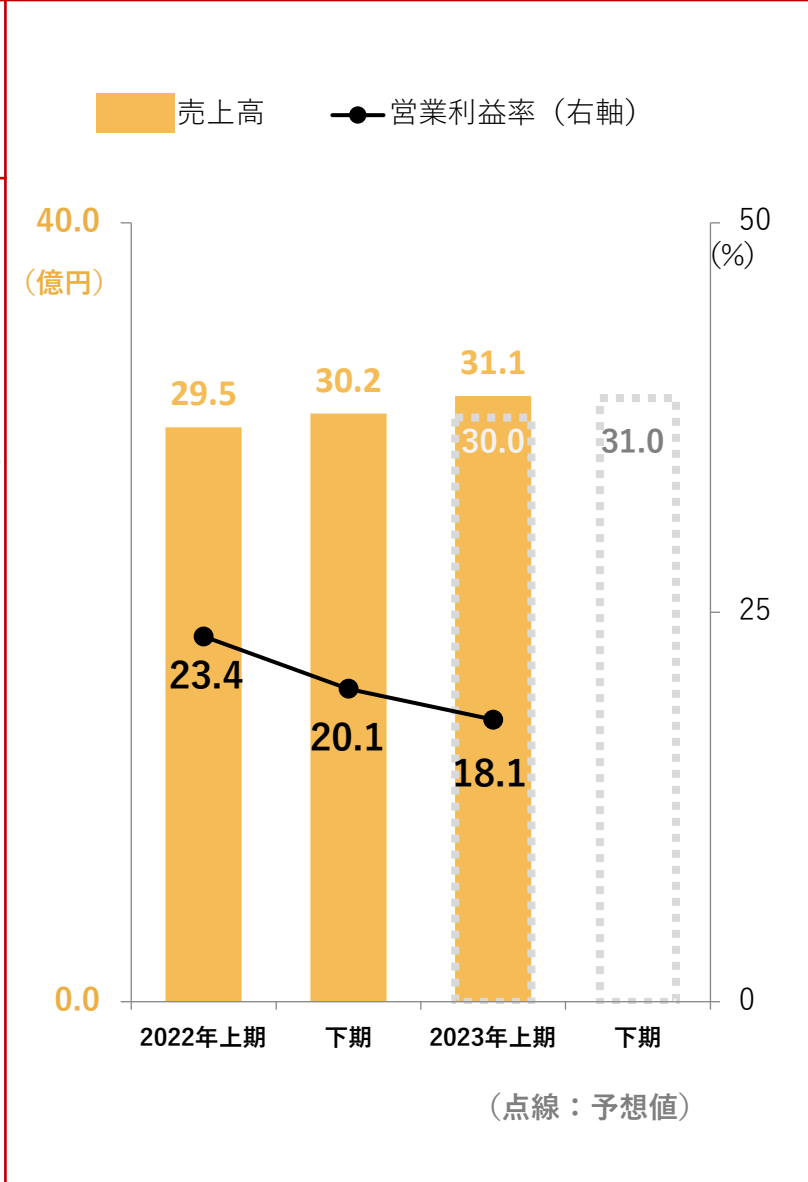
2023年上期 売上高	通期予想	進捗率 vs通期予想
65.6 億円	134.1 億円	48.9%

- 外部環境**
 - ・ 2023年の半導体市場はマイナス成長が予測される中、半導体市場の市況悪化が顕著となる。
 - ・ 最先端のEUV材料は実用化が進展。
 - ・ ディスプレイ市場は緩やかな回復傾向がみられるが、パソコンやスマホは引き続き低調。
- 当社の状況**
 - ・ 主力のArFレジスト用原料の販売が末端市場の需要が軟調となり横ばいで推移。
 - ・ 表示材料グループは、中小型ディスプレイの回復が遅れ販売は低調に推移。
 - ・ EUV用途の材料は順調に増加。
- 市場におけるリスク**
 - ・ 米中経済対立の激化。



2023年上期 売上高	通期予想	進捗率 vs通期予想
31.1 億円	61.0 億円	51.0 %

売上高・営業利益率



● 外部環境

- ・ 国内市場では社会経済活動が再開されスキンケアをはじめ、化粧品が回復基調。
- ・ 中国では、1月に新型コロナウイルスの感染が再拡大。2月以降は回復基調となる。

● 当社の状況

- ・ 化粧品原料の販売は、海外で好調に推移。
- ・ 機能材料グループは、受託品の販売が低調に推移。
- ・ 子会社の高純度特殊溶剤の販売は好調。

● 市場におけるリスク

- ・ 中国市場における新興メーカーの台頭
- ・ 中国での新型コロナ再拡大による経済回復の遅れ

01. 2023年11月期 第2四半期決算概要

02. 2023年11月期 業績予想

03. トピックス

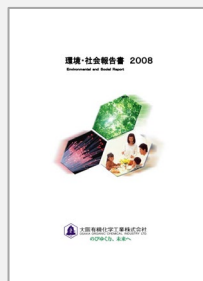
04. 参考資料



統合報告書の発行

当社では、2008年～2019年にかけて、毎年環境社会報告書を発行してまいりました。2020年からより内容を充実させたCSRレポートに移行し、2023年からは、さらに財務情報を加えるほか、内容を一層充実させた統合報告書を発行いたしました。ガバナンス、労働安全衛生、気候変動への取り組みなど、当社の活動をご紹介します。2023年7月3日にホームページに掲載いたしましたので、是非ご一読下さい。

環境社会報告書



CSRレポート



統合報告書 2023



ホーム
ページ
で公開中



2008
年

2019
年

2020
年

2022
年

2023
年

01. 2023年11月期 第2四半期決算概要

02. 2023年11月期 業績予想

03. トピックス

04. 参考資料

< 半期比較 >

(単位：億円)

		2022年		2023年	YoY (vs.2022年上期)		HoH (vs.2022年下期)	
		上期	下期	上期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	化成品	56.5	53.8	45.8	△10.7	△19.0%	△8.0	△15.0%
	電子材料	75.4	76.7	65.6	△9.7	△12.9%	△11.1	△14.5%
	機能化学品	29.5	30.2	31.1	+1.6	+5.6%	+0.8	+2.9%
営業利益	化成品	5.5	2.5	3.1	△2.3	△42.7%	+0.6	+24.1%
	電子材料	20.6	17.3	10.6	△10.0	△48.7%	△6.7	△38.8%
	機能化学品	6.9	6.0	5.6	△1.2	△18.6%	△0.4	△7.4%

< 四半期比較 >

(単位：億円)

		2022年				2023年		YoY (vs.2022年2Q)		QoQ (vs.2023年1Q)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	化成品	28.3	28.1	28.5	25.3	21.1	24.6	△3.5	△12.5%	+3.4	+16.3%
	電子材料	38.7	36.7	37.9	38.8	32.3	33.2	△3.4	△9.3%	+0.9	+2.8%
	機能化学品	14.1	15.3	15.2	15.0	15.1	16.0	+0.6	+4.3%	+0.8	+5.7%
営業利益	化成品	2.5	2.9	0.8	1.7	1.3	1.8	△1.1	△38.2%	+0.4	+36.3%
	電子材料	10.8	9.8	7.8	9.4	5.8	4.8	△5.0	△51.3%	△1.0	△17.4%
	機能化学品	3.2	3.6	3.3	2.7	3.0	2.6	△1.0	△28.7%	△0.3	△13.2%

貸借対照表

(百万円)

	2022/11	2023/05	増減額	
資産				
流動資産	28,082	26,638	△1,444	現金及び預金 △1,041百万円 受取手形、売掛金及び契約資産 △1,123百万円 他
有形固定資産	18,470	19,831	+1,361	機械装置及び運搬具(純額) +645百万円 建設仮勘定 +735百万円 他
無形固定資産	116	118	+2	
投資その他の資産	6,166	6,529	+363	投資有価証券 +406百万円 他
資産合計	52,836	53,117	+281	
負債				
流動負債	9,169	9,470	+301	支払手形及び買掛金 △638百万円 未払金 +1,214百万円 他
固定負債	2,272	1,517	△755	長期借入金 △804百万円 他
純資産	41,394	42,129	+735	
負債純資産合計	52,836	53,117	+281	利益剰余金 +1,024百万円 自己株式 △586百万円 他

今後の財務指標

2023/05時点

今後の目安

自己資本比率	78.2%	—
手元流動性比率	2.5ヵ月	3.0～4.0ヵ月
DEレシオ	0.07	0.2以下
ネットDEレシオ	△0.11	0以下 (実質無借金)
インタレスト・カバレッジ・レシオ	732倍	200～400倍

営業外損益

営業外収益では、為替差益が前期より減少しました。
営業外費用では自己株取得費用が前期より減少しました。

特別損益

特別利益では、有価証券売却益が増加しました。

(百万円)

	2022/05	2023/05	増減額	
営業外収益	221	142	△79	→ 為替差益 △83百万円 他
営業外費用	15	8	△7	→ 自己株式取得費用 △7百万円 他
特別利益	—	248	+248	→ 投資有価証券売却益 +247百万円 他
特別損失	0	0	△0	

青字：利益増加要因
赤字：利益減少要因

(百万円)

	2022/05	2023/05
営業活動によるCF	2,814	2,020
投資活動によるCF	△702	△990
財務活動によるCF	△1,973	△2,074
現金及び現金同等物に係る 換算差額	110	2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	248	△1,041
現金及び現金同等物の 四半期末残高	9,842	7,022

[主な内訳]

税金等調整前四半期純利益	2,322百万円
減価償却費	1,018百万円
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	1,143百万円
棚卸資産の増減額(△は増加)	△696百万円
仕入債務の増減額(△は減少)	△642百万円
法人税等の支払額又は還付金(△は支払)	△1,002百万円
他	
有形固定資産の取得による支出 (半導体材料製造設備等)	△1,175百万円
他	
長期借入金の返済による支出	△899百万円
自己株式の取得による支出	△601百万円
配当金の支払額	△582百万円
他	

<見通しに関する注意事項>

- 本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- 従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があります、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】
管理本部 IR・広報担当
TEL 06-6264-5071 (代表)



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

東証プライム：4187